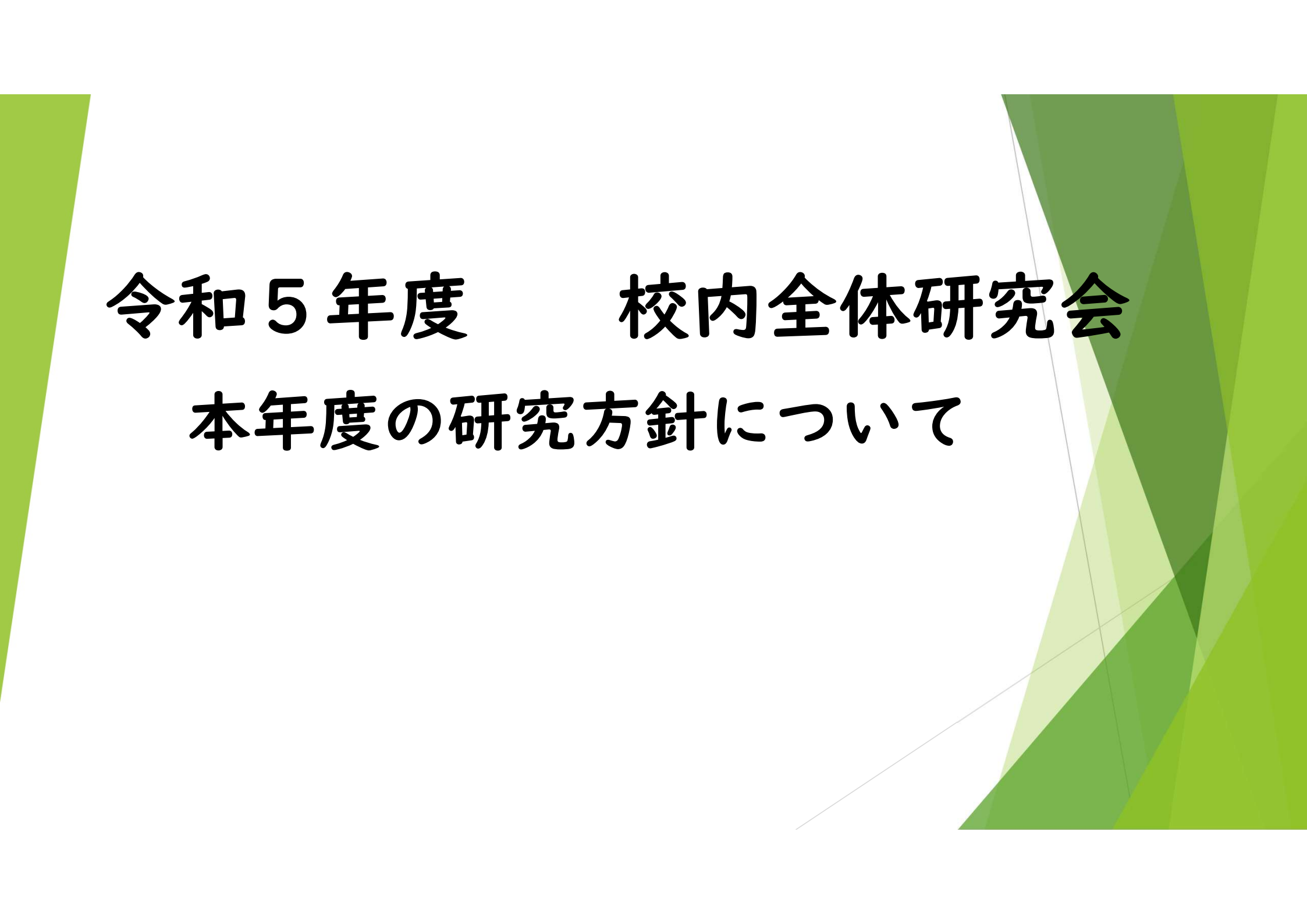




令和5年度 校内全体研究会

本年度の研究方針について

これまでの研究を振り返って

目指す児童像

「言葉の力」を積み重ね、学びを豊に表現できる子

研究テーマ

対話による新たな気づきを大切にし、
主体的に学び合う授業づくり

これまでの研究を振り返って

「言葉の力」の獲得にこだわり系統を意識した単元づくり

→ 主体的に学びに向かい、積み重ねを実感

「一人学びからみんな学び」「思考を深めるゆさぶり」

→ 新たな気づきに出会い、考えをさらに深める

研究の成果

自分の思いを豊かに表現し、
さらなる学びへと向かう姿

学習指導要領が示していること

三つの資質・能力

学びを人生や生活に生かそうとする

主体的に学習に取り組む態度

社会や生活にて生きて働く

知識及び技能

未知の状況にも対応できる

思考力・表現力・判断力

全ての教科において

「主体的・対話的で深い学び」を
意識した授業改善が求められている。

授業改善とは（総則解説より）

「主体的な学び」の視点

→児童自身が粘り強く取り組む課題

「対話的な学び」の視点

→自己の学びを広げ深める学びの場面

これまで培ってきた授業づくりを活かす



授業改善につながり、他教科でも深い学びを実現できる

本年度 研究テーマ

研究テーマ

「わかった」「できた」を実感し、自ら学びをつないでいく子の育成

～魅力的な単元と思考を深める発問をいかした授業づくりを通して～

魅力的な単元の構想とは

- ◎ 児童が「やってみたい」「取り組んでみたい」と思える単元
 - ・目の前にいる児童がどこまで理解していて、何が足りていないのかを正確に把握
 - 初めて教材と出会ったときや実際に事物・事象を観察したときの素直な感想
 - 単元の学習に沿ったアンケート
 - ・児童の実態と身に付けさせたい力とをすり合わせて、最終的なゴールを見据えた単元を構想する。
 - 三次での姿を明確に示し、全体で共通理解しておくことで、目指す姿に向けて、一回一回の授業を必要感をもって取り組む
 - ・特別な活動をすることが「魅力的」ではない。子どもたちにとって「やってみたい・取り組んでみたい」と思えるような魅力があるかが肝心。

思考を深める発問【ゆさぶり】

◎ 深い学びへと導く手立て

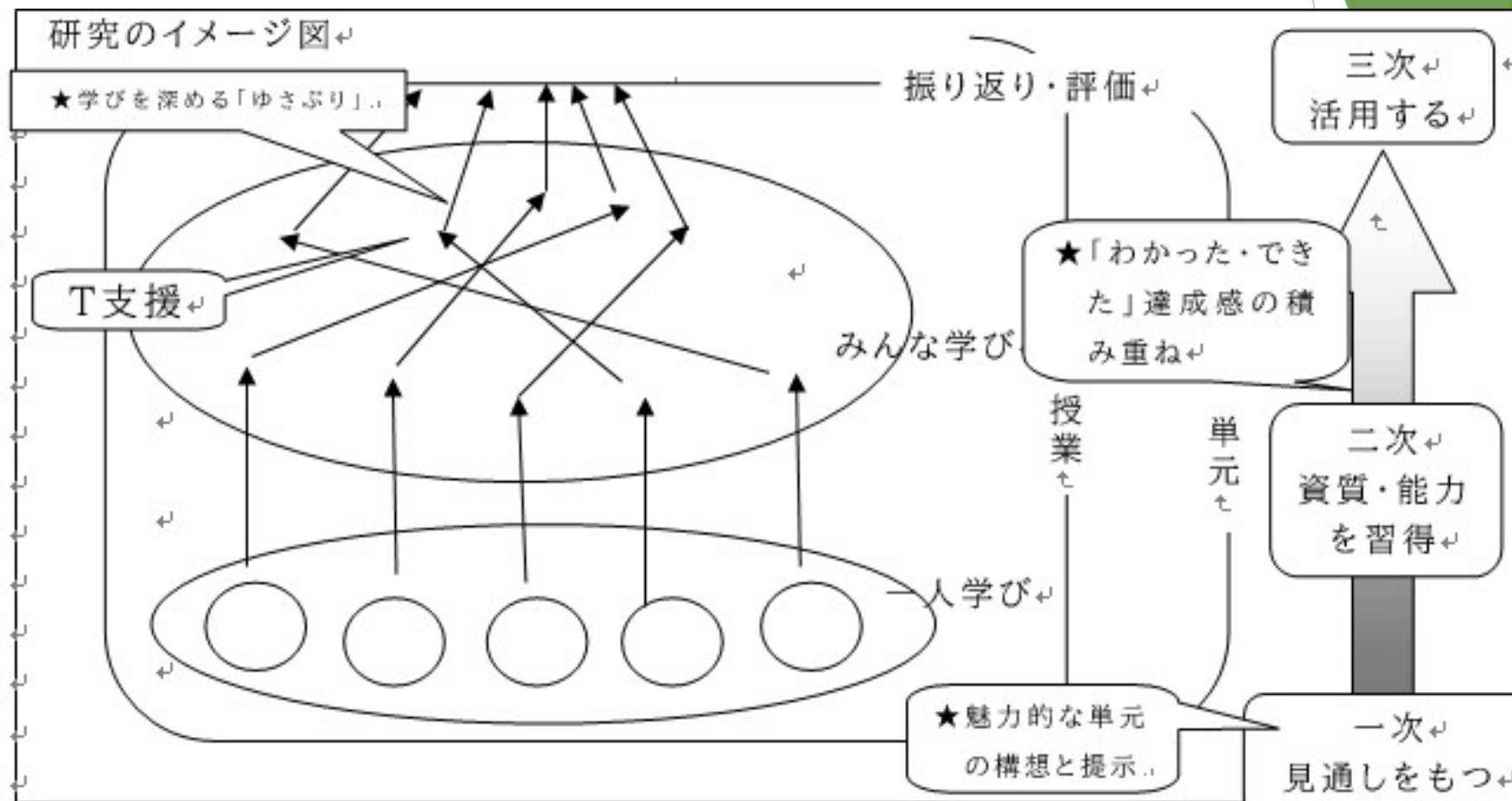
- ・ 一時間の授業の中で、本時の課題に対する自分なりの考え【一人学びや予想】をもち、それらを交流させる場【みんな学び】を設定する。友達の考えと自分の考えを比べることで、類似点や相違点を見つけ、意見をつないでいく。

また、新たな気づきを効果的に生み出すために、教師が「授業の山場」を意識し、児童の思考を深める契機として、意図的に「ゆさぶり」をかける。

思考を深め、以前よりも「わかった」「新たな考えに気付けた」という感情は達成感となり、次への意欲へと繋がる

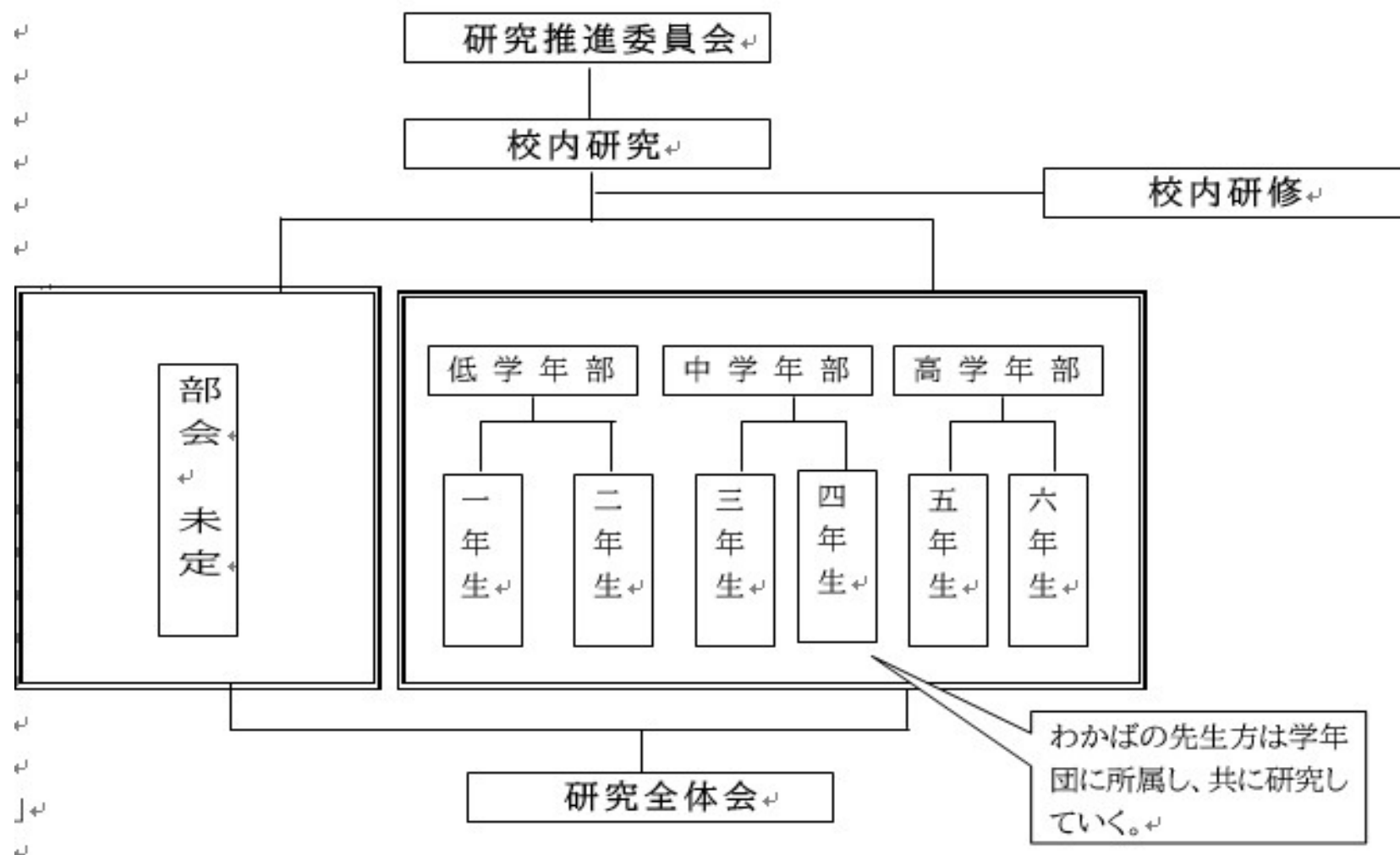
研究のイメージ図

対話的な学びで深める



主体的な学びで深める

研究組織



公開授業について

- ①全体研究授業(3つ)は学年団の代表が行い全員参観とする。
- ②学年層研究授業は全体会に該当しなかった学年団の代表が行う(3つ) 事前・事後研究会は、学年層で行う。
- ③ ①②以外の方は学年内公開授業とする。
- ④学年の代表となる研究授業の検討にわかばの先生方が分かれて入る。
- ※一人一単元の考えのもと、指導案を作成し、授業に臨む

今後の予定

5月17日 提案後、学年層で全体研・学年層研
の代表者を一名ずつ決める。

5月31日 全体研究会の代表者が集まり、
教科と授業実施時期を決める

6月26日 1回目の全体研究授業(予定)
※全体研究授業の事前研は学年層
で行う